



学校だより

横浜市立大鳥小学校

令和2年12月1日 発行

おおとり

12月号

学校教育目標

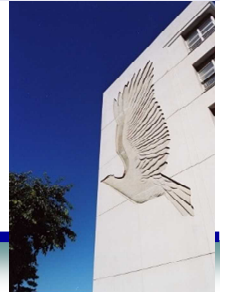
〒231-0806 中区本牧町1-251
学校長 水島 貴志 TEL 621-7700

はばたく子

◆やさしい子

◆たくましい子

◆かしこい子



「生きる力」学びの、その先へ

校長 水島 貴志

初冬の候、保護者・地域の皆様におかれましては、お忙しくご活躍のことと存じます。2020年、令和2年のカレンダーも残り1枚となり、“光陰矢の如し”を実感しているところではないでしょうか。思い返せば11か月前、学校だより令和2年1月号の巻頭言に、私は次のように書きました。

年が明け、2020年、令和2年が始まりました。今年の子(ねずみ)年。「子(ね)」は「繁殖する・うむ」という意味をもつ「孳」という字からきており、「新しい生命が種子の中にきざし始める状態」を表していると言われています。～“ねずみ”はたくさんの子を産むことから繁栄の象徴とされています。今年が東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとともに、本校の創立100周年の年。我が国、そして本校にとって、みんなの夢がかなえられる繁栄の年、そして次の時代に向けて新たな目標をもってスタートを切る年になることを願っております。

そんな期待と希望に満ちた挨拶を書いたわずか2か月後の学校だより3月号では、「新型コロナウイルスによる感染拡大防止のための臨時休校」に触れざるを得ない状況となりました。それからこれまでの9か月間は皆様ご承知の通りで、まさに「コロナ禍の1年」となった2020年(令和2年)のこの状況を誰が予想できたでしょうか。

(次頁へ)

(前頁より)

そして、この状況に合わせたかのように、学習指導要領が改訂されています。表題の『『生きる力』学びの、その先へ』は今回の学習指導要領のキーワードで、今回の改訂には次のような願いが込められています。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

(文部科学省「学習指導要領ウェブサイトより」)

まさに、今の時代に合った改訂と言えるでしょう。つまり、今回改訂された学習指導要領が目指す「生きる力」を身に付けることは、このコロナ禍においても幸せを実現することにつながるはずです。本校でも、この「生きる力」の育成を目指して、今年のような状況の中でもできることを工夫しながら教育活動を行ってきました。そして10月から11月にかけて、その集大成ともいえるイベントを2つ執り行いました。一つは10月30日に行ったBSF、そして二つ目は11月19日に行った全校遠足です。

BSFは、秋の午前中開催、参観者なし、感染症対策と言った例年とは違う形での開催となりました。子どもたちも職員も、どのような内容ならば実施が可能か頭をひねりながら準備を進め、今できる範囲内で最高のBSFを創り上げることができたと感じています。また、全校遠足は創立100周年記念事業として初めて行うものであり、まさに0からのスタートでした。たてわりで行動するため、リーダーとなる6年生が事前に下見を行うなど入念に準備を進め、当日は小春日和の中、安全に楽しく根岸森林公園に行くことができました。

この2つのイベントを行う過程(準備も含めて)で、いかに子どもたちの「生きる力」が育まれてきたか。それは、校門での朝のあいさつにも如実に表れていました。本番が近づくとつれて、あいさつの声量が日を追うごとに大きくなっていき、当日にはこちらが聞きもしないのに「○○をがんばります！」と宣言しながら通っていく子どもたち。自ら課題を見付け、自ら考えて幸せを実現するべく前向きに行動してきた結果が、このような子どもたちの姿として表れたのだと思います。そして、この達成感、成功体験が、次の活動への活力として蓄えられたであろうことは、今、長縄大会に向けて運動場で練習に励んでいる子どもたちの姿を見ても明らかです。

今年のような状況で、できることを工夫しながら自分たちの活動を創り上げてきた経験は、必ずや今後の糧になると確信しています。「生きる力」の育成を目指した学びのその先が、子どもたち、そして保護者・地域の皆様の幸せにつながっていることを願っています。